

2021年度 第2回 町田市立博物館運営委員会 議事録（要旨）

- 1 開催日時：2022年3月7日（月）午後2時～3時30分
- 2 会場：市庁舎10階 10-3会議室（オンライン併催）
- 3 配布資料：＜資料1＞2021年度に開催した事業（追加資料有り）
＜資料2＞2022年度に開催する事業
＜資料3＞博物館に残っている民俗資料について
＜資料4＞芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトパークミュージアム DESIGN BOOK 抜粋
＜資料5＞令和4年度（2022年度）予算概要説明書 抜粋（追加資料）

4 出席者：【委員】

玉蟲 敏子 副委員長	今井 敦 委員	原田 一敏 委員
椿 敏幸 委員	山口 有次 委員	宮原 裕美 委員
若月 雅裕 委員	伊藤 嘉章 博物館館長	

【市・事務局】

篠崎 文化スポーツ振興部長	神谷 文化振興課長
齊藤 担当係長（学芸員）	朝倉（学芸員）
高橋（学芸員）	新井（学芸員）

井上暁子委員長が急病により欠席のため、玉蟲副委員長の承認を受けて、神谷課長が進行を担った。

5 議題（報告）

（1）報告－1 2021年度に開催した事業（2021年8月～2022年3月）＜資料1＞

主な質疑：

委員 体験講座の中で、土器の歴史と意義について紹介したとあった。体験だけではなく、体験を作品とどう繋げるかが重要である。他の講座でも類似の内容を行っているか。

事務局 ガラスの体験講座でも、作業開始前に館藏品や技法の説明をしている。

委員 作品と体験講座との関連付けはとても重要である。体験講座の最初と最後に作品の鑑賞に繋がる話を強化すべきである。

委員 「和菓子×工芸」パネル展示で冊子は何部制作し、配布状況はどうであったか。入館者数が多いため、そのうち積極的に冊子を持ち帰った

数を知りたい。

事務局 5000部を制作し、うち配布数は約4300部、残部は700部である。

委員 体験講座の参加人数にばらつきがあるのが気になる。吹きガラスには9名ずつしかいないのはなぜか。

事務局 ほぼマンツーマンで指導するため、1日に手がけられる人数の上限が9名となっている。希望者は多く、抽選を行っている。屋外で行うため制作の様子を見学することができ、講座の参加者だけでなく公園の来園者からも好評をいただいている。

委員 親子で焼き物体験の際、焼成の工程を公園内で行う上で、火気・煙の問題はなかったか。

事務局 公園緑地課と調整を行い、近隣の迷惑にならないように講師とも協議を重ね、煙やにおいの出にくい窯を制作していただくなどの工夫をした。公園と美術館の一体的な芸術の場づくりとして、今後も取り組んでいきたい。

(2) 報告-2 2021年度中に開催する事業について
特に意見なし

(3) 報告-3 2022年度に開催する事業<資料2>
主な質疑:

委員 2021年度は巡回展を行っていたが、2022年度は企画していないのか。

事務局 協議中だが、まだ決定しているものはない。

委員 体験講座の名前を見ると、子ども向けや初心者向けという印象を受ける。博物館らしいネーミングを工夫するとよいのではないか。

事務局 タイトルについては再度検討したい。

(4) 報告-4 博物館に残っている民俗資料について<資料3>

事務局 2020年度に策定した「町田市の民俗資料の保存管理、活用に関する方針」に基づき、第1群と第2群の民俗資料については2021年4月に教育委員会に移管済みである。資料3に示した博物館に残っている第3群の民俗資料は、由来も不明で資料的価値を失っているものであるため、今後は除籍し、処分する方向で手続きを進めていく。

(5) 報告-5 (仮称)国際工芸美術館の整備について<資料4・5>
事務局 (仮称)国際工芸美術館の整備の進捗状況としては、現在は美術館の

コア機能である「展示」と「収蔵」の環境について検討を進めているところである。また、公園の未利用地を用いたインフォメーションや喫茶、工房などの機能を担う施設の整備は、基本計画の策定中である。また、博物館では、(仮称)国際工芸美術館への機運を高めるためのアウトリーチ活動を行っている。(仮称)国際工芸美術館は2022年度第三四半期より整備工事を始め、2026年3月の開館を、工房・アート体験棟は2022年度から設計し、2025年10月の開館を目指している。

委員 国際版画美術館の著作権について、設計者から権利の主張があったが、解決したのか。

事務局 裁判所での手続きが継続している。

委員 (仮称)国際工芸美術館、アートステージ、工房・アート体験棟などの開館時期が少しずつずれている。連携が重要だと思うが、事業を企画立案する主体や、進め方の枠組みについて確認したい。

事務局 管理運営を担う民間業者と市役所(市職員)の関わり方の詳細については、検討段階である。官民連携の枠組みについては、公園管理も含めて考えていく。2つの美術館と体験棟との連携が重要であり、実施されるプログラムの編成から全て民間に任せる、といったことは想定していない。美術館での展示内容と合わせた体験講座の企画が重要であり、役割分担の整理を今後も進めていく。

委員 役割分担は重要であり、さらには官民の関係性がフラットであると良い。民間事業者が主体的に運営できる部分も重要だと考えている。

事務局 価値観を共有できる民間事業者と、フェアなパートナーシップで続けていくべき事業と考えている。

委員 「タイケンステージ」や「(仮称)国際工芸美術館」など、箱(施設)を意識して区切りがちに見える。空間の連続性を意識しなければ、各施設が別々の存在となってしまう。

事務局 体験棟はまだ基本計画の段階であり、DESIGN BOOKの図は、建物の形ではなく、位置を示したものと捉えていただきたい。連携の在り方は今後も検討していく。

(6) 閉会

館長 (仮称)国際工芸美術館は子どもを大事にしながら大人も楽しめる、そういう役割を担う、より新しい、優れた、楽しい館にしていきたい。工芸と向き合うだけでなく生活の中にある工芸の楽しさを、町田だけでなく日本中に広めていくことも考えている。

事務局 本日いただいたご意見をもとに、今後の館の運営を行っていく。

これをもって閉会とする。